

ふれあい訪問「笑い顔を見せて！」

岡山県本部 森脇良明

岡山市北区祇園の広大な敷地にある。旭川児童院すみれ病棟には守る会の仲間、奥原博道さんが入所されています。

8月9日（日）10時30分ころ、真田・森脇は奥原博道さんを訪問しました。旭川荘は規模が大きく、日本でも2番目に大きいと言われており、訪問の度に目的の場所がわからなくて、今回も職員の方に場所をお尋ねしました。

事前に連絡をしていたお兄さんに電話をすると、駐車場まで迎えに来てくださいました。病室の壁には、職員の方に書いていただいた奥原さんの笑顔の似顔絵が掲示してありました。奥原さんは幼いころはゆっくり歩いて、話もできていましたが、年を追うごとに機能低下が進み、通常は寝たきりで、話もできませんが、2011年には春のバス旅行でRSKバラ園に行き春の花々を楽しみ、家族と一緒に食事をしました。また先月には旭川荘の夏祭りがあり、打ち上げ花火をお兄さんと一緒に楽しまれたそうです。奥原さんは温かな表情で、ななちゃんのぬいぐるみ（テレビ瀬戸内イメージキャラクター）抱えたり、ぶら下げたりしていて、真田さんが「お兄さんが来てくれるからええなあ」と言うと、笑ってくれます。「握手をしようやあ」と言うと手を出してくれます。

また、奥原さんは誤えん性肺炎になり「胃ろう」をしていますが、最近はとろみをつけた食物を口から食べています。訪問当日の昼食も、お兄さんがスプーンで口元に差し出すと大きな口を開けて完食しました。

お兄さんは「森永には苦しめられたが、今は恒久救済で旭川児童院のみなさんにも親身に弟の面倒をみていただき助かっている。」と言われていました。

お兄さん、旭川児童院すみれ病棟のみなさんにはお世話になりました。ありがとうございました。



